

140 税効果計算業務において、回収可能性を考慮して繰延税金資産の計上を判断する際の要件として、最も適切な組み合わせはどれか。

A: 収益力に基づく課税所得の十分性

B: タックスプランニングの存在

C: 将来加算一時差異の十分性

a) A

b) AとB

c) AとC

d) A、B、Cの全て